

---

# オトコノコ

要徹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
オトコノコ

【Nコード】  
N11810

【作者名】  
要徹

【あらすじ】  
「 ああ、愛しい我が子よ。いつまでも傍にいて……」

「やった、やったわ……。念願の男の子よ」

歡喜のあまり叫びをあげる彼女は、夫の家族から「女腹」だと罵られて生きてきた。しかし、そんな絶望に満ちた人生も今日で終わりだ。彼女の両手は喜びで震えている。なにせ、誰もが欲しくて、欲しくて仕方がなかった男の子が家族に加わったのだから、その喜びはもつともなものだ。

しかし世の中不思議なもので、せつかく男の子が家族に加わったというのに、誰も喜ばない。それどころか、彼女のことを狂人として見るかの様な目で見ている。それほどまでに、男の子を産むことが出来ない彼女を罵りたかったのか。それとも、彼女の喜びようが異常であるのか。

彼女は、念願の男の子に深い愛情を注いだ。屋烏の愛……。とても言おうか。今まで憎しみを抱いていた夫の家族も愛おしく感じた。

妻はこのように男の子を溺愛しているのだが、夫の方かというと男の子に興味も示さない。愛情を注ぐなど、もつてのほかという雰囲気だ。念願の男の子が可愛くないのだろうか。愛おしくないのだろうか。

男の子が三歳になろうかという時。

彼女は男の子と共に外へと繰り出していた。以前から周囲の目は冷やかだだったが、今日はより一層冷たい。だが、彼女はそんなことは気にかけなかった。周囲からの冷たい視線など、何の障害にもならない。私にはこの子がいる。それが彼女の支えだった。

「この子さえいれば、私は何もいらないわ。そうよ、夫も、忌まわしい女の子も……」

男の子が五歳になった時。彼女は七五三を祝うため、神社へと向かった。男の子に袴を着せ、彼女自身も正装をして。千歳飴を買い、男の子の安全を祈った。やはり、周囲の視線は冷たい。何を羨んで

いるのだろうか。この幸せそうな二人を……じつと見つめている。  
彼女が男の子を抱き抱えて帰宅すると、手紙が丸机に置かれていた。乱暴な字でそれはつづられていて、憎しみさえ感じられた。

『もう、お前とはいられない。このまま男の子と一緒に仲むつまじく暮らしてくれ。俺は、娘二人を連れて出て行く』

手紙をびりびりと破り捨て、男の子を抱きしめる。

「なによ、自分に愛情を注がれなかったからって、出て行かなくてもいいのに。でも、私にはこの子がいるわ。私が待ち望んだ、男の子が……」

男の子が七歳の誕生日を迎えてから数日した頃、彼女は大急ぎで医者へ電話をした。愛しい我が子に、一大事が起こったのだ。

彼女は声を荒げて言う。

「ああ、お医者様。愛しい我が子を救ってください。私が彼を抱き抱えたところ、右腕がポッキリと折れてしまったのです。どうか、どうか我が子を救ってやってください。今もぎゃあぎゃあと泣いております」

「落ち着いて、すぐに行きますから」

「これが落ち着いていられますか！ ああ、早く、早く来てくださいますえ！」

彼女は不安で、不安で仕方がなかった。我が子の腕が治らなければ、己の右腕を差し出そう、と考えていた。医者の到着を今か、今かと待ちわびていた。

しばらくの後、医者が彼女の家に到着した。

「奥様。上がってもよろしいですか？」

「ああ、お医者様。こちらの部屋でございます。今も痛い痛いと言き叫んでおります。早く救ってやってくださいませ」

彼女の声が部屋の奥から響いてくる。だが、子供の泣き声など聞こえてはこない。それどころか、彼女と医者、それ以外の生気を感

しない。

そして、医者が居間に辿り着いた時。彼は目を疑った。

彼女は男の子を抱えて……いや、右腕の折れた、男の子の人形を抱えて泣いていた。

（後書き）

子供をもつけるなら、女の子と男の子、両方欲しいですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1181o/>

---

オトコノコ

2010年10月8日12時14分発行